



名古屋東海ワイズメンズクラブ

会長主題 「ジャンプ！」

国際会長主題 「命の川を信じよう」	Jacob Kristensen (デンマーク)
アジア太平洋地域会長主題 「変化をもたらそう」	David Lua (シンガポール)
西日本区理事主題 「Let's do it now!」	吉田 裕和 (京都トウビー)
中部部長主題 「知らせよう! ワイズの奉仕活動を」	早川 政人 (名古屋グランパス)
名古屋東海クラブ標語 『限りなき熱情を奉仕に』	

——— 今月の聖句 ———

兄弟たち、あなたがたに勧めます。怠けている者たちを戒めなさい。気落ちしている者たちを励ましなさい。弱い者たちを助けなさい。すべての人に対して忍耐強く接しなさい。

(テサロニケ第一 5章 14節)

強調月間 T O F (Time of Fast) C S (Community Service) F F (Family Fast)

2月例会等ご案内

◎ 2月第1例会 (第2例会を兼ねます)

Time of Fast: 飢餓に苦しむ人々のために

食事代を捧げます= **食事なしの例会です。**

日程: 2月18日 (木) 18:45~

会場: 名古屋YMCA (ご注意下さい)

担当: 鷺尾文夫君・谷口みはる君

開会宣言・点鐘: 太田全哉会長

ワイズソング・五つの信条は新型コロナ対策の為割愛します。

プログラムはオークションです。

商品を沢山お持ち下さい。

諸課題について協議・諸連絡

閉会宣言・点鐘: 太田全哉会長

例会は緊急事態宣言・新型コロナの感染状況により中止になる可能性もありますので、ご了承下さい。

お年玉切手シートの当選番号は50、58、60です。当たっていたらシートに換え、CS担当の長谷川和宏君にご提出下さい。

東海ワイズ五つの信条

- 一. 自分を愛するように隣人を愛そう
- 二. 青少年のためにYMCAにつくそう
- 三. 世界的視野を持って国際親善を果たそう
- 四. 義務を果たしてこそ 権利が生じることを悟ろう
- 五. 会合には出席第一 社会には奉仕第一を旨としよう

【出席率】 1月末—在籍者 20名
(内広義会員 2名)
出席者 0名 (Make up 0名)
出席率 算出不能

【特別ファンド】
1月ファンド 0円
合計 1,369,244円

SUZUKI REPORT (3)

Generation Z (以下Z世代)とは、アメリカ心理学会等の定義では、1997年以降生まれ(現在の16~23歳前後)の若者を指します。主な特徴としては、デジタルネイティブ、社会問題への意識が強い、自分だけの個性を追求、現実/実利主義、などが挙げられます。

住居、職場、仕事上から、私はいくつかのワイズメンズクラブ例会に参加しました。が、名古屋地区のクラブ、特に名古屋東海クラブは、所属させて頂いて嬉しく思えるクラブです。名古屋Yスタッフ経験と東海クラブのお蔭で、今の私のユースとの付き合い方の基礎ができたと思います。

閑話休題。今回も私の関わったユースプログラムを紹介いたします。

◇ワンワールド・フェスティバル for Youth



「私たちが描く持続可能な社会の未来図」、「高校生が作る高校生のためのイベント」として大阪YMCAを会場に、関西地域の高校生が毎年約1000人が集結するイベントに、運営委員会及び高校実行委員会顧問として関わっています。今年は残念ながら、オンライン開催となりましたが、それでものべ1300人の高校生のアクセスがあり、また企画・運営の場では、Z世代の若者たちの情熱とスキルに圧倒されました。

◇YMCA 学院高校授業「国際平和セミナー」

これは、長谷川メンや大島メンが推進されている「チャリティーウォーク」を参考にさせていただきました。大阪城北西側(天満橋方面)を起点に、大阪城下に残る日中~太平洋戦争の痕跡(大坂砲兵工廠化学分析場→機銃掃射痕他)を歩



き、南東(JR森ノ宮駅)側にあるピース大阪(博物館)で大阪空襲の展示・疑似体験をすることの探求型・経験型授業を年に2~3回ほど実施しています。

◇SCM現場研修(3月実施予定)



私が実行委員長を務めるSCM(学生キリスト者運動)協力委員会の企画プログラムです。大阪釜ヶ崎(日雇い労働者、ホームレス居住地域)及び生野地区(在日韓国人・朝鮮人居住地域)のスタディーツアーを今年度はzoomで開催します。社会の現場を知る貴重な機会です。興味のある学生・青年へのご案内をお願いできれば幸いです。(詳細は添付ご参照下さい)

さて、表題に戻ります。Z世代とYMCAと積極的意協働する名古屋地区型クラブを結ぶキーク

ードは「SDGs:Sustainable Development Goals」ではないでしょうか。17の目標・169のターゲットを持ち、経済・社会・環境を「現代の世代と将来の世代の公平性」との視点から「バックキャスティング（未来のあるべき姿を起点に現実の世界から進むべき道を探る）方式で考える。また、この続きは機会があるときにお話したく思います。

（鈴木一弘）

コロナの下でひと言

日本区二分割のこと

浅野 猛雄

今、ワイズは西と東に分かれています。私が初めて参加した日本区大会（第34回1979年姫路）の代議員会の最大の議案は日本区二分割案でした。出席者のあいだから重要な案件で有るのでクラブに持ち帰って採決をしては？との意見もありましたが、その場で採決する事となり二分割案が可決されました。但し、区を解散するには二度の議決が必要の為、再度代議員会が開かれる事になりました。



その頃東海クラブでは第37回の日本区大会をホストしようとの機運が盛り上がっていましたが、もし、分割されたらホストに立候補しないとの共通の意見でした。また、ブリテンで日本区二分割は時期尚早で有るから反対とのコメントを何回か発信を致しました。竹内理事からも手紙が来て、北西部長の森健一さん（京都クラブ）に相談したら「浅野さん、心配せんでよろしい、私も、昔、ブリテンに目茶目茶書いて怒られましたわ」との言葉を頂きました。また、岩越元理事（大阪クラ

ブ）からは「あんた、東海か？ うちら、あんたらのブリテンで勉強会を開いたわ」とも言って頂きました。

1980年1月に熱海で開催された2回目の代議員会で賛成27・反対37で二分割案は否決されました。私は会場に居た山田次々期理事に日本区大会をホストしますとご挨拶し、その年横浜で開催された日本区大会のバナーセレモニーで37回大会をホストしますとアピールし沢山の拍手を頂きました。

日本区二分割では、怪文書と言われるものが流れましたが、私は、今でも東海クラブはルールに則った行動をしたと思っています。

絆

柴田洋治郎

今年は、あの3・11から丁度10年になるうとしています。あの時の巨大津波の様子は今でも目に焼き付いて離れません。私はその時、会社で打ち合わせをしており、グラッと強い揺れを感じたので、室内にあるテレビのスイッチを押しましたが、次々と地震情報が出され、更にこの世のものとは思われない大津波が陸を襲う様子がテレビ画面に映し出されました。以後、この年のマスコミ報道は東日本大震災一色で、娯楽番組も自粛状態となったのは皆さんご存じの通りです。東北の被災状況は死者・行方不明者2万人を超え、構造物の倒壊等の多大な損失は、世界的にも近年最大の自然災害でした。



さて、本題の「絆」についてですが、この言葉は震災直後から盛んに使われるようになりました。この大災害の中でも、世界中の人々を感動させたことは、日本人は冷静で、利他的な対応をすぐとったことでした。この協調的な行動は、日本の長い歴史の中で培われた「信頼」、「お互い様」といった強い絆の精神風土の表れとも言われています。日本人は一丸となって、被災地の多くが行政機能やインフラが失われた中で、官民間わず被災者支援、復興対応に乗り出し、加えて、国境を越えて諸外国からも善意の手が差し延べられました。この支援には心を揺さぶられることもありました。



ワイズ及びYMCAも人的支援、寄付等の支援を行い、その後の豪雨災害、台風被害においても継続されました。ここに「社会関係資本（ソーシャルキャピタル）」という学問用語があります。通常、社会資本といえば、道路、橋等の社会インフラ、公共財を思い浮かべますが、「社会関係資本」とは、見返りを期待しての行動ではなく、絆や他者への信頼、思いやりによる協調行動をとることによって社会の効率性を高めるソフトな概念です。NPOであるYMCAやワイズも正にその概念の輪の中にあります。

わが国ではコロナ感染発生後、国民に対して強制的に行動制限をかけるのではなく、各自の自主性に基づく自粛を要請し行動変容を呼び掛けています。現状、この成果は欧米に比べれば良好といえるかもしれませんが、日本を含む東アジア諸国のコロナ感染については、当地域の生活習慣や免疫力にも関係しているとも言われています。いずれにせよ、依然として正体不明で邪悪なコロナは世界中で猛威を振るっており、予断を許さない状況にあります。

このような状況で、人と人との接触が制限されている中でもワイズやYMCAの絆には強いもの

があると私は信じています。コロナに打ち勝ち、新しい日常を取り戻すまで、もう少しの辛抱です。

雪にまつわる思い出

松本 勝

この冬2回目の寒波が襲ってきました。外は雪がちらついています。雪といえばYMCAのスタッフとしてスキーの引率は一杯しましたが、雪には色々思い出があります。

梅池高原から国道に降りる山道で我々の乗ったバスが後輪を道から踏み外したことがありました。乗っていた子供たちやリーダーをバスから降ろして、バスの前後を前と後のバスにワイヤーで結び、引っ張り上げてもらい、無事帰ってくるのが出来ました。

また、一晩に1 m近く積もる大雪に見舞われ国道が閉鎖されて、お迎えのバスが行けなくなってしまったと連絡がありました。バスの駐車場に行ってみると下から上がってくる観光バスは全然ありませんでした。その頃、携帯電話はまだありませんでしたので、迎えのバスの居所が把握できませんでした。宿屋の主人と相談し、最悪の場合もう一泊できるように頼み込み、私は駐車場の見える所でバスが来ないかじっと待ちましたが、観光バスは上がって来ませんでした。

午後になって一台上がって来ました。見慣れたバスでしたが、我々のバスかどうか遠くからでは判りませんでした。大急ぎで駐車場に行ってみると「名古屋YMCA」と書いているではありませんか。奇跡でした。バスは閉鎖前に閉鎖区域に入っていたのでした。しかし帰路はまた大変でした。市街地に入ると道路の両側に除雪した雪が積み上がり壁になっていて大型観光バス同士のすれ違いが大変困難でした。除雪により道の中央がくぼみ、両端が高くなっているため、バス同士の屋根がぶつかりそうになるからです。そんなこんなで、名古屋に帰りついたのは深夜でした。

雪遊びは大好きでしたが、雪にはずいぶん悩まされました。



【添付】 SCM現場研修案内

2021.3.13・第43回SCM現場研修 in ZOOM

「共生社会と私たち ZOOM ～生野・釜ヶ崎の現場で学ぶ～」

SCMは、Student Christian Movement、学生キリスト者運動の略です。この運動は貧富の差の拡大や、差別が存在する社会構造に疑問を抱き、貧しき者の立場に立とうとした学生キリスト者の運動です。生野・釜ヶ崎の現場で学ぶSCM現場研修は、1979年から始まりました。

昨年はコロナのため中止しました。今回、ZOOMでの現場研修を開催します。

宿泊はありません。一日だけのZOOM研修です。制限のある研修となりますが、充実したものにしたいと思います。ぜひ、ご参加ください。

●日時：2021年3月13日(土)午後1時半～4時半

●スケジュール

委員長あいさつ

オリエンテーション

研修生自己紹介

講演、大谷、原田、生田(大谷さん、講演題をお願いします。)

講演、李根秀、長崎、呉光現(李さん、確認と講演題をお願いします。)

質疑応答/意見交換

OBOGの意見交流/発言の時間

まとめ

●対象：18歳～35歳の趣旨に賛同する学生、青年

●参加費：1000円(e-mail で申し込み後、郵便振替<01180-2-58517 SCM協力委員会>で送金ください。)

●募集人数：20名

(OBOG は、ふくまれません。別途申し込みください。)

●申し込み：e-mail hida@ksyc.jp の項目をおおくりください。

1) 名前(ふりがな)

2) 住所/住所、連絡先

3) 所属大学・学部/勤務先

4) 志望動機

4) その他、研修への希望があれば

●締め切り、2021年2月15日

●企画運営：SCM現場研修実行委員会

鈴木一弘(委員長、学生YMCA)、飛田雄一(SCM協力委員会)

大谷隆夫(釜ヶ崎現場担当者)、李根秀(元研修生、KCC館長)

朴淳用(元研修生、神戸学生青年センター)、

スタッフ 片岡美月(2019年研修生)津村じゅり()

●主催：SCM協力委員会

(委員長・鈴木一弘、主事・飛田雄一、委員・大谷隆夫、李根秀)

事務局 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1

神戸学生青年センター内(担当・飛田雄一(ひだ ゆういち))

TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878

ホームページ <http://ksyc.jp/scm/> e-mail hida@ksyc.jp